

サイカメラZERO

杉並区では気象災害から住民を守る仕組みの1つとして、

善福寺川・神田川の水位上昇危険箇所に災害監視カメラ「サイカメラZERO」を導入。

日本気象協会の総合気象サービス(MICOS Fit)も活用し河川水位状況(画像)を住民へ公開し情報を提供。

背景

- 台風や局地的豪雨により、善福寺川・神田川の水位上昇が顕著となっていた。これに対し杉並区においては、周辺住民の安心安全を守るため、水位情報(画像)を24時間提供できる環境構築が検討されることになった。
- 日本気象協会と日本ユニシスがサービスを開始したクラウド型災害監視カメラサービス「サイカメラZERO」と、日本気象協会の総合気象サービス(MICOS Fit)を活用した仕組みによりこれを実現。

概要

- 善福寺川の丸山橋、松見橋、武蔵野橋、神田川の向陽橋、富士見橋の5箇所に「サイカメラZERO」を設置。
- これらカメラの画像は携帯通信回線(3G)を介し5分間隔でデータセンタに送信。日本気象協会提供の総合気象サービス「MICOS Fit」に連携することで河川の状況を住民に公開している。



アピールポイント

- 2014年の設置以降、杉並区では区民・河川の周辺住民に対する危険状況の情報提供に有効に活用されている。
- 「サイカメラZERO」は、カメラ、通信回線、データセンタ、画像表示アプリケーションの利用をクラウドにて提供するサービス。初期システム開発やシステム運用の負荷がなく、設置費用と定額の月額利用料金にて導入・利用が可能。状況監視により、自治体の意思決定を支援するツールであるが、今回ホームページサービスと連携したように、災害関連ソリューション(災害情報収集管理システムなど)やセンサー・計測器との連携により、災害時の意思決定や減災に向けた取り組みに活用可能。

